

中学校第2学年 社会科

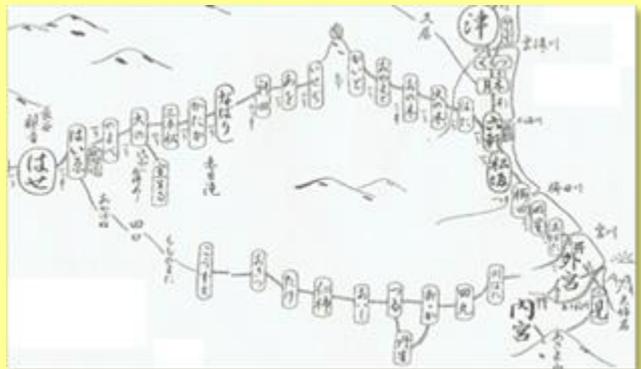
⑩ 榛原周辺の伊勢街道を調べる

学習のねらい

- 身近な地域の道でフィールドワークを行うことを通して、その道や地域が果たした歴史的な役割について理解し、地域に関心をもつ。
- 江戸時代に榛原が宿場町として発展した理由を、地理的条件と社会的条件から考察し、表現する。

郷土の資源について

榛原は、伊勢参りが大ブームになった江戸時代に、宿場町として発展した。それは、榛原が初瀬と伊勢を結ぶ2つの街道の分岐点にあたる交通の要地であったためである。本居宣長が宿泊したとされる旅籠もあり、この郷土資源を活用することで江戸時代の都市と交通について理解を深められる。



学習指導要領上の位置付け

歴史的分野の「歴史のとらえ方」の「身近な地域の歴史を調べる活動」として、中学2年の「江戸時代の都市と交通の発達」の単元に計画的に組み込んで行う。

学習の流れ

1. 榛原周辺の伊勢街道のフィールドワークを実施する。

2 時間

2. 収集した情報をもとに、グループで2つの街道を地図化する。

1 時間

3. 江戸時代に榛原が宿場町として発達した理由について考察する。
(本時)

1 時間

参考文献・Web ページ

- ・「大和の伊勢街道」中村俊文 近畿古道探索会 平成3年
- ・「はいばらの伊勢街道」榛原町 榛原町広報課 平成3年
- ・宇陀市 HP <https://www.city.uda.nara.jp/shoukoukankou/kankou/kankou/machinami/kaidou.html>



展開例（本時 4 / 4）

	学習活動	指導上の留意点 （※評価規準）	備考
導入	○本時の問いに対する仮説を立てる。 なぜ、江戸時代に榛原は宿場町として発展したのだろう	・前時までの授業を振り返らせる。	
展開	○地理的条件について考える。	・自分たちで作成した歴史地図を活用して考えさせる。	・自作の歴史地図
	○社会的条件について考える。	・生徒が収集した資料や教科書から、庶民の生活の向上や伊勢参りの流行、街道の整備などについて読み取らせる。	・広域の街道図 ・当時の旅行業者の指定宿リスト ・大阪方面からの旅行者数の記録
	○庶民がどのようにして旅の資金を得たのかについて考える。	・庶民が「伊勢講」と互助団体を組織し、みんなでお金を出し合って、代表者に代参させたことを読み取らせる。	・「伊勢講」についての記録
まとめ	○本時に習得した知識をまとめる。 【習得すべき知識】 榛原が宿場町として発展したのは、伊勢と初瀬を結ぶ街道の分岐点にあたり、伊勢への峠越えの手前であったためである。また、当時の庶民の間に、信仰と遊興を兼ねた伊勢参りが流行し、旅行関連産業の需要が高まったためである。	※地理的条件と社会的条件を関連付けて考察し表現している。	

発展的な学習の例

夏休みの課題として、奈良県内にある様々な道について、時代ごとにその歴史的役割を整理して、地図にまとめることなどの活動が考えられる。その際に、奈良県 HP 掲載の「奈良県景観資産『街道景観』地図」(<http://www.pref.nara.jp/34965.htm>)などが活用できる。

